



## 2024年のスタートにあたって

2024年は、お正月からみなさんも知っているように、能登半島地震や日航機の衝突事故など災害や大きな事故など暗いニュースでスタートしました。能登半島の地震では、発生から10日以上経ってもその被害の大きさが毎日伝えられていて、たくさんの方が亡くなり、安否が不明の方もたくさんおられ、未だにどんどん被害が広がっている状況です。そして厳しい環境の中で避難所生活を送っている方も多くいます。さらに家族や大切な人を亡くし、心が引き裂かれるようなつらい思いを抱えながら懸命に生きている方もいます。自衛隊やAMDAといった支援団体、また国の災害対策本部など、懸命の復旧作業が続いており、全国から支援物資が届くようにはなっていますが、まだまだ復旧の目処はたらず、いつになったら被災地の方々が普通の生活に戻れるのか、先のことを考えると気が遠くなるような状況が続いています。

私たちも、遠く離れた場所で起きた災害ではなく、自分事として捉えて、被災地の方々の思いを汲(く)み取りながら自分たちに何ができるか、お互いに助け合う相互扶助の精神をもって真剣に考えていかなければならないと思います。災害の多い日本で未来を生きていくみなさんにとって忘れてはならない大切な考えだと思っています。

## 3学期の始業式での話

1月9日(火)の3学期の始業式では、羽田空港での日航機の衝突事故について、話をしました。事故について簡単に説明すると、成田空港の滑走路で、能登の地震のために救援物資を届けるために離陸しようと滑走路に入ってきた海上保安庁の飛行機と、着陸してきた日航機が、衝突してしまった、という事故です。原因については、様々な要因があったようで、未だに検証が続いていますが、ここではそれはおいておいて、あれだけの衝突で飛行機が火に包まれるという大惨事にもかわらず、一人の犠牲者も出さなかったことについて、考えてみたいと思います。



この事故を受けて、海外のメディアは、「日航機の乗客が誰一人命を落とさなかったのは奇跡だ」と報道していましたが、「それは、奇跡なんかではなく、乗務員(CA)の日頃の訓練のおかげ」というニュースを見ました。

つまり、

**日頃の訓練 → 本番を想定した意識 → 事故発生時、自分が何をすべきか一人一人が考えた**

**379人全員無事に脱出**

日頃の訓練では、筆記と実技の両方に合格しないと乗務できないそうです。訓練の様子を見ると、そこには**厳しさ**と**真剣さ**がありました。

やはりこういった気持ちの持ちようが、きっと何事においても大きな成果につながっていくのだと思います！

少しテーマはズれるかもしれませんが、みなさんは、部活動の試合や高校入試、さらにこの先の人生において数々の大きな試練があると思います。覚えておいてほしいことはそういった場面では奇跡は起きない、ってこと。大切なことは、それに向けた「緻密な準備」です。

普段の取組み(勉強、委員や係の仕事、部活動など)を真剣に、そして自分に厳しさをもって、日頃からがんばってほしいと思います。

今年は辰年です。2024年は竜が昇っていくように、みなさんが様々な面で上昇していけることを期待しています。